事例 27　友だちとの関係が築きにくい子どもへの指導

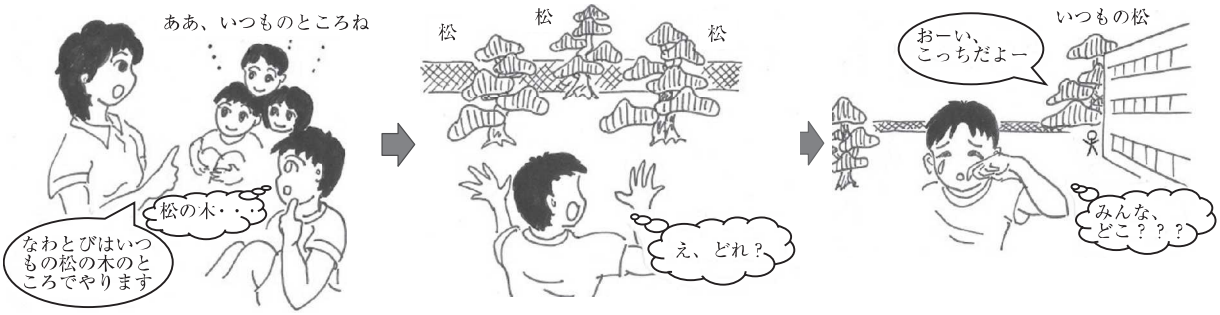
～スモールステップで支援を組み立てて～

転校してきた５年生のユウタさんは，やることが分からなくなったり，周りの人に困ったことを尋ねることができなかったりして，混乱している様子が見られます。また，細かい手先の作業や体を動かすことも苦手で，学習がスムーズに進まずに苦労している姿が見られることから，ＬＤ・ＡＤＨＤ等通級指導教室で指導を受けることになりました。

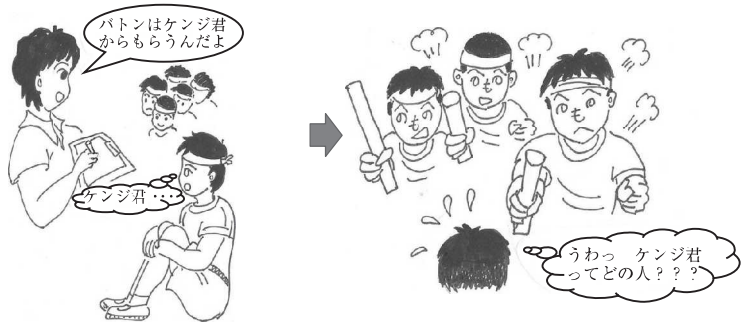
自立活動の内容となる「状況の把握」と「意思の伝達」及び「目と手の協応動作」の改善に向けての個別指導と，それをもとにした少人数でのソーシャルスキルトレーニングを取り入れた通級指導教室の指導について紹介します。

◇　転入してきた頃のユウタさん

＜どこに行くのかわからない・・・＞

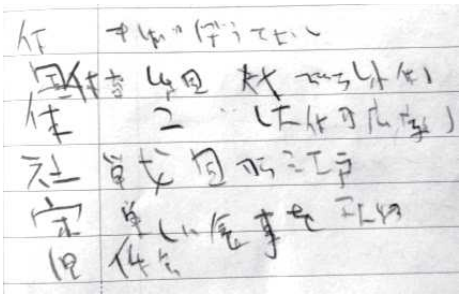


＜だれから受け取るのかわからない・・・＞



＜運動が苦手＞

＜読みにくい文字＞



大きさ，形が整わない

＜説明ができない＞

「どうしたの？」と聞かれても，順序よく話せずに「だって・・・」と泣いている。

◇　指導の方向を見い出す

ユウタさんは，一度にたくさんのことが目や耳に入ったりすると，それらを整理することができずに混乱する傾向がありました。また，保護者からは，小さいころから環境になじむまでに時間がかかる，会話がちぐはぐになる，手や体の動きがぎこちない等の様子をお聞きしました。

そこで，諸検査を行うとともに医療機関も受診する中で，認知機能に偏りがあること，対人関係が築きにくいこと，全身運動や手先の操作に苦手さがあることが明らかとなってきました。これらを踏まえて校内委員会や市の就学相談（指導）委員会で検討を行った結果，学習や生活上の困難さの改善を図るために，ＬＤ・ＡＤＨＤ等通級指導教室で個別の指導を受けていくこととなりました。

通級指導教室では指導にあたって，次の３つの目標を立て，目標に向けてスモールステップで指導を行っていくことにしました。

① 状況を整理してとらえたり，言葉で伝えたりすることができるようになる。
② 学習や生活の中で人に働き掛けられるようになる。
③ 目と協応した手指や身体の動きの向上を図る。

さらに，通級指導教室での支援やユウタさんの姿を担任に伝え，学級の中でも支援の方法をできる範囲で工夫してもらうこととしました。

◇　コミュニケーション面での基礎的な指導

【ステップ１】　「コミュニケーションに目を向けて　１」

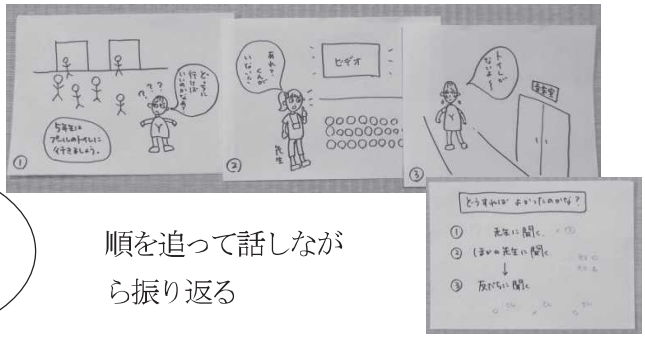
① クラスの友だちの顔と名前を覚えよう
- 身近な友だちの顔と名前を覚える。
- 会話や指示の中で友だちの名前が出てきたときに，その相手が分かる。

② 何が　どうなって　困ったの？
- 自分が困ったことやその時の状況を，時間を追って整理しながらふりかえることができる。
- 困ったときには，担任や近くの友だちに「困った」と伝えることができる。

学習活動	内　容
① クラスの友だちの顔と名前を覚えよう	・自分の身近にいる友だちから，名前と顔が一致できるように，写真と名前のカードのマッチングをする。 ・その友だちと一緒に行ったことについて話す。
② 何が　どうなって　困ったの？	・困ったときの状況を，絵カードを見ながら振り返る。 ・どうすればよかったかを考え，困った状況が起きた時を想定して，周りの人に困ったことを伝える練習をする。

顔と名前のマッチング

困ったときの状況を絵で示す



順を追って話しながら振り返る

【ステップ２】　「コミュニケーションに目を向けて　２」

① 自分がしたことを順番に話そう

・自分が経験した事柄を，順番を追って言葉で表現できる。

② 会話の仕方を練習しよう

・話を始める，話を続ける，話を終えるなどの場面ごとの言い方を知る。

・設定した場面に応じて，教師と会話（やりとり）することができる。

学習活動	内　　容
①　自分がしたことを順番に話そう。	・教室や家で実際にあったことを題材に，本人の話からキーワードとなることをメモする。順番に並べ替えたメモを見ながら話す。「はじめに」「次に」「それから」のつなぎの言葉を意識して，順序よく話を組み立てて話す練習をする。
②　会話の仕方を練習しよう。	・会話を始める，続ける，終えるなどのそれぞれの場面に応じた，具体的な言葉や会話のルールについて知る。 ・教師と役割を交代しながら，題材を決めて会話の練習を積む。

＜会話の仕方を練習しよう＞

その１　具体的な言葉，会話のルール

○話を始めるときは・・・

・話してよいか確かめる→「ねえ，○○さん」「ちょっといいかな？」

○話を続ける

・相手の顔や目を見て話す

・一人でしゃべり続けない

・相手が話し終わってから話す

・相づちを打ちながら聞く→「うん，うん」「そうだね」

○話の終え方は・・・

・最後まではっきりと話す→「・・・と思います」

・相手に聞いてみる→「どうですか？」　　等

その２　会話を楽しもう

○今日のテーマは？

・最近のあったこと，休みの日のことなど話しやすいテーマを示す。順番に並べたメモを見ながら話す。

○たしざんトーク

・教師と０～５の指じゃんけんをする。
足した数のテーマについて話をする。

*通級指導教室での指導は，ユウタさんの学級での，発言や話し合いのルールを踏まえて行うようにしました。

こうした通級指導教室での学習を担任の先生にも伝えながら，ユウタさんが通常の学級の中でできるだけ混乱しないで分かりやすく過ごせるように，次のような支援をお願いしました。

・指示は一つずつ。言葉とともに，できるだけ書いて伝える。

・一度にたくさんのことを伝えない。

・友だちと一緒に行う活動をするときは「だれ」と「何を」「どのように」するのか，必ず相手を前にして，具体的なやり方を示してから行うようにする。

・混乱したら，しばらくクールダウンする時間をとる。担任または通級担当者が個別に対応する。状況を整理しながら話を聞いて，どうしたらよかったかを一緒に考えて練習をする。

・相手に分かるように話せたときは「よく分かったよ！」ということをその場で伝えて，自信が持てるようにする。

【ステップ３】　「目と手の協応にかかわる指導」
① 注目するところはどこ？
② 目標を見て手・体を動かそう
・目標物の動きに合わせて視線をスムーズに移動したり，目でとらえた形や位置情報と手や体を連動させて動かしたりする力の向上を図る。

いろいろな刺激がある中から目標とするものを見つけることや，動いているターゲットを目で追うことが苦手なユウタさん。自分が置かれている状況が分からなくなってしまうことに加え，本を読むときに「どこだっけ？」と探す，文字を整えて書くことが難しい，細かい作業や運動が苦手などの状態が見られます。ユウタさんは，目から入った情報を正確に処理して効率よく学習していく過程（目の運動機能，形態や空間の知覚や認知，目と手の協応等）に課題があって，学習のつまずきが生じていると推測されました。

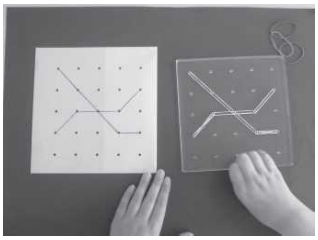
そこで「見る力」のチェックを行い，その上でパズルや点結びなど，作業を通して視覚認知の力をトレーニングしたり，目の動きに合わせて手や体を動かす活動を取り入れて空間の中での自分の身体の動きをイメージする力を高めたりしながら，状況を的確にとらえることができるようにしていこうと考えました。

学習活動	内　容
・目と手，身体を協応させた動きのトレーニング 風船バレー，ピンポン玉キャッチ 数字さがしゲーム，矢印に合わせて動く　等 ・視覚認知を高めるトレーニング パソコンを使った眼球運動トレーニング　ジオボード，点つなぎ，パズル　等	・ボディイメージの形成を図り，目と手，身体を協応させたスムーズな動きができるように，上下・左右を意識して動いたり一定のリズムで動いたりする。 ・頭を動かさずに目だけで目標物を追ったり，形や線を正しくとらえて書いたり動かしたりする。

数字さがしゲーム

数字が書いてある磁石を，ボードに書かれた数字に合わせて動かす。

ジオボードを使って見本と同じ形を作る。



読みに使うスリット

ユウタさんの文字や運動のつまずきに対する要因や特別な支援の仕方については，担任に説明をして，学級でも次のような配慮をお願いしました。

・教室の前面は，掲示物は最低限にしてすっきりとさせる。
・板書で大事なポイントやノートに書く部分は，枠で囲んだりチョークの色を変えたりして，見るところを明確に示す。教科書を読むときは，スリットを使う。

また，バレーボールのパス練習がうまくいかなかったユウタさんでしたが，友だちが「ユウタさん行くよ」と名前を呼んでから一番最初にパスを出すこととしました。自分にボールが飛んで来ることがあらかじめ分かるので，体勢を整え，ボールを目で追ってレシーブすることができました。名前を呼んだり呼ばれたりすることで，友だちを意識することが実感できたユウタさんでした。

◇　個別の学習を少人数での学習につなげて

通級指導教室での個別の学習を意欲的に行い，生活の面でも混乱が減ってきたユウタさんでしたが，クラスでは，まだ「えっ？どうするの？」と動けなくなったり，友だちの話に入っていかれなかったりする様子も見られました。

個別での学習を学級集団で生かすには，次の段階として小グループで友だちとやりとりする過程が必要と考え，地域の療育コーディネーターや心理士とチームを組んで，グループによるソーシャルスキルトレーニングを実施していくことにしました。メンバーはユウタさんと同じように対人関係や空間認知等に課題を抱える年齢の近い子ども４名です。

実施にあたっては「集団行動」「セルフコントロール」「仲間関係スキル」「コミュニケーション」の４視点からの実態把握を行い，個々に目標を立てた上で，グループとしてのプログラムを組みました。グループ指導は隔週で全１０回，放課後に行いました。

【ステップ４】「少人数グループでのソーシャルスキルトレーニング」

○　友だちと話すスキルや協力して活動するスキルを身に付けよう

・少人数のグループで，相手を見て，相手に聞こえる声で話すなど，話すときのスキルを意識しながら，相手に分かってもらえるように伝えることができる。

・二人組で行うゲームを通して，仲間と相談して折り合いをつけながら，協力して活動することができる。

回	取り上げた主な題材	ねらい
1	名刺交換ゲーム	・相手を見る，声の大きさ，距離などに気を付けて自己紹介する。
2	スリーヒントクイズ	・ルールを守る。最後まで聞いてから答える。
3	話し合いのルールの確認	・「会話の仕方」（ステップ２②）を生かして話す。
4	提案しよう「いろんな利用法」	・「～はどうかな？」「～でいい？」などの言葉を使って，適切に自分の考えを提案する。
5	積み木の伝達 （隣の人に伝える）	・隣の人が言葉だけ聞いて積み木を組み立てられるように，順序を考えて伝える。
6	積み木の伝達 （向かい側の人に伝える）	・相手の視点に立って，前後・左右を意識しながら積み木の組み立てを伝える。
7	リモコンウォーク	・目隠しをした相手が障害物にぶつからないようにわかりやすく伝える。
8	トランプゲーム	・ルールを守ってゲームをする。やさしい言い方で友だちに教えたり声をかけたりする。
9	ゴムゴムＵＦＯキャッチャー	・相手の動きを意識したり声を掛け合ったりしながら協力してコップを運ぶことができる。
１０	協力して動かそう	・相手と相談して折り合いをつけたり，動きを合わせたりして積み木を積むことができる。

＜話すことのスキルを身に付けるために＞

積み木の伝達（隣の人へ伝える）

はじめに青を置いて。次に，赤を，黒の上に重ねて置いて下さい

ゆっくり，　つずつ話してくれたから，よくわかったよ

話し合い

この次は卓球をやりたいな

それもいいけどドッジボールもやろうよ

＜協力のスキルを身に付けるために＞

協力コップタワー

見本の色に合わせて交代で組み立てる。

自分の持っている色のコップがないときは，ていねいな言い方でお願いをして，友だちからコップをもらう。

協力して動かそう

どれを動かすか相談して決めて，二人で力の加減をしながら上に積んでいく。

ユウタさんには，その時間にやったことを担任に報告することや，グループで学んだ話すことや協力することのスキルについて，教室や家庭などでも意識して使うことを次回までの宿題としました。また，通級指導教室の担当者からは，担任や保護者に扱った内容と学習の様子を伝えて，スキルが身についていくように，よい姿が見られたら，すぐにどんなところがよかったのか，具体的に本人に伝えてもらうようにしました。

◇ユウタさんの変容

ステップ１から４までの指導を通して，ユウタさんは困ったことが起きて混乱することはあっても，周りの人に尋ねたり，落ち着いてから自分の言葉で順を追って説明したりする姿が見られるようになってきました。また，文字を罫線に沿って大きさを整えて書くことや，左右を意識して体を動かすことなどにも改善が見られるようになりました。担任の支援や友だちの理解も，ユウタさんの通常の学級での過ごしやすさを支えています。

事例から学ぶ

通常の学級において，学習や生活上のつまずきのため困っている子どもがいる場合，通級指導教室などでの個別または小集団の学習を検討してみましょう。その際，アセスメントを基に指導計画を立て，課題に応じてグループ学習を導入するなどスモールステップで支援していきましょう。

このとき，個別の指導をする教師と担任が情報交換し合い，課題や支援方法を共有していくことが大切です。個別の学習での学びが通常の学級につながり，通常の学級の中で，「わかった」「できた」と意欲をもって生活できるようにしていきたいものです。